

愛娘への手紙

— 貢姫宛て鍋島直正書簡集 —

公益財団法人 鍋島報効会

はじめに

十代佐賀藩主鍋島直正公（一八一四～七二）は、幕末における有志大名の一人として知られ、佐賀では郷土の賢人として語り継がれています。没後まもなく側近千住大之助により編纂された『直正公譜』、直正公に近侍した久米邦武により著され大正九年（一九二〇）に侯爵鍋島家編纂所から刊行された『鍋島直正公傳』をはじめとする数々の伝記や研究書により、直正公のご偉業が高く評される反面、人としての直正公には峻険なる印象もありました。

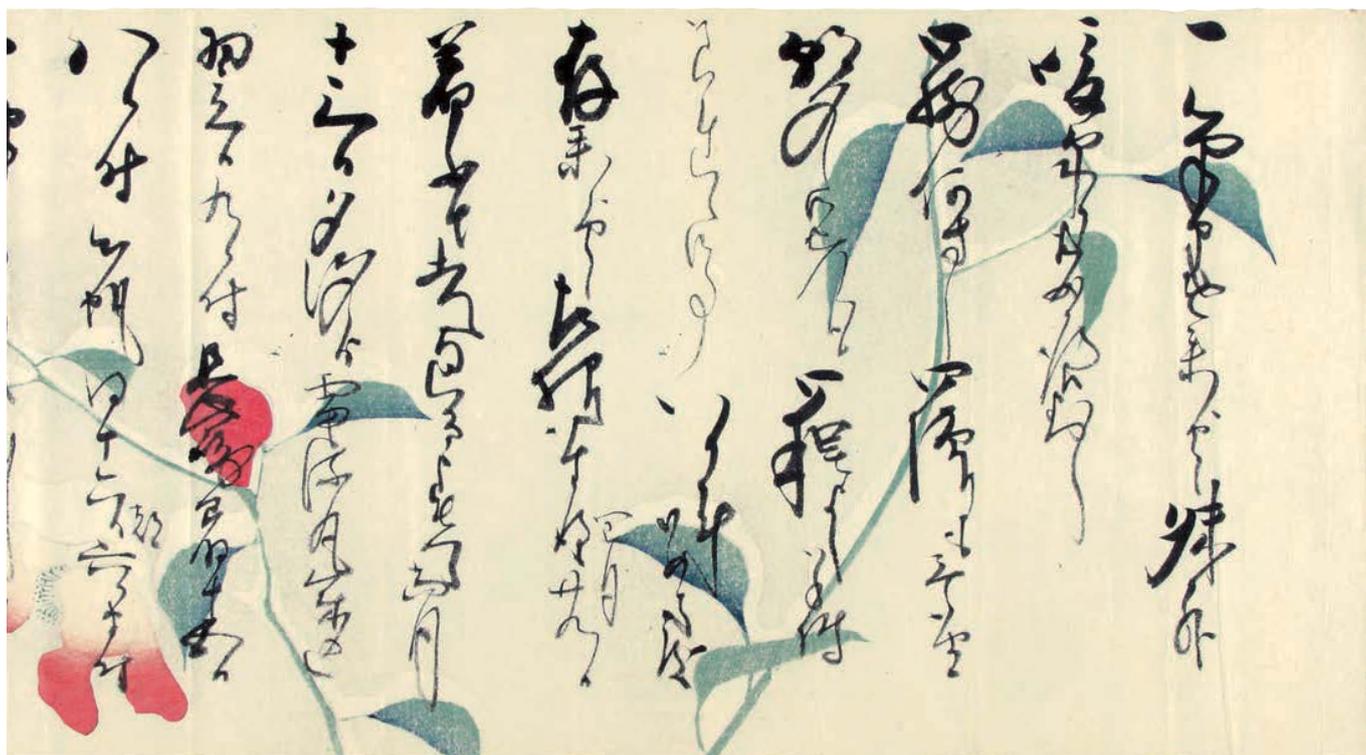
直正公が主に長女貢姫に宛て自らの言葉と筆で認めた二〇〇通近い書簡群を解読し、直正公の人物像に近づかんとする事は、当財団にとり永年の願いでありました。平成二十六年（二〇一四）、直正公の生誕二〇〇年を機に出版を企画し、公刊の運びとなった今年、平成三十年は奇しくも貢姫が大正七年（一九一八）に没して一〇〇年にあたります。

本書の出版が従来の伝記や研究書などにより知られてきたご偉業に加え、人間直正公のお考えや思い、愛娘である貢姫をはじめ直正公が縁を大切にされた人々との情愛といったものにも迫りうる資料の一端となることを願っております。

永年翻刻作業に携わられた方々、また出版にあたりご尽力を頂いた皆様に深く感謝の意を表します。

公益財団法人鍋島報效会

会長 鍋島 直晶



[100]

一筆申遣参らせ候、殊外

暖氣ニ相成候得共、まつく

御揃、何方之御障りも無御座、

朝夕之御せんも御程よく御手附

られ候御事、いか計御めて度

存参らせ候、左様御座候得も、廿九日

着義も先達而申遣候、當月

十三日夕汐に電流丸乗込、

翌日九ツ時長崎着、十五日

八ツ時出帆、同十六日六ツ半時

閏月廿九日 閏三月六日江戸
発、閏三月二十九日佐賀城着

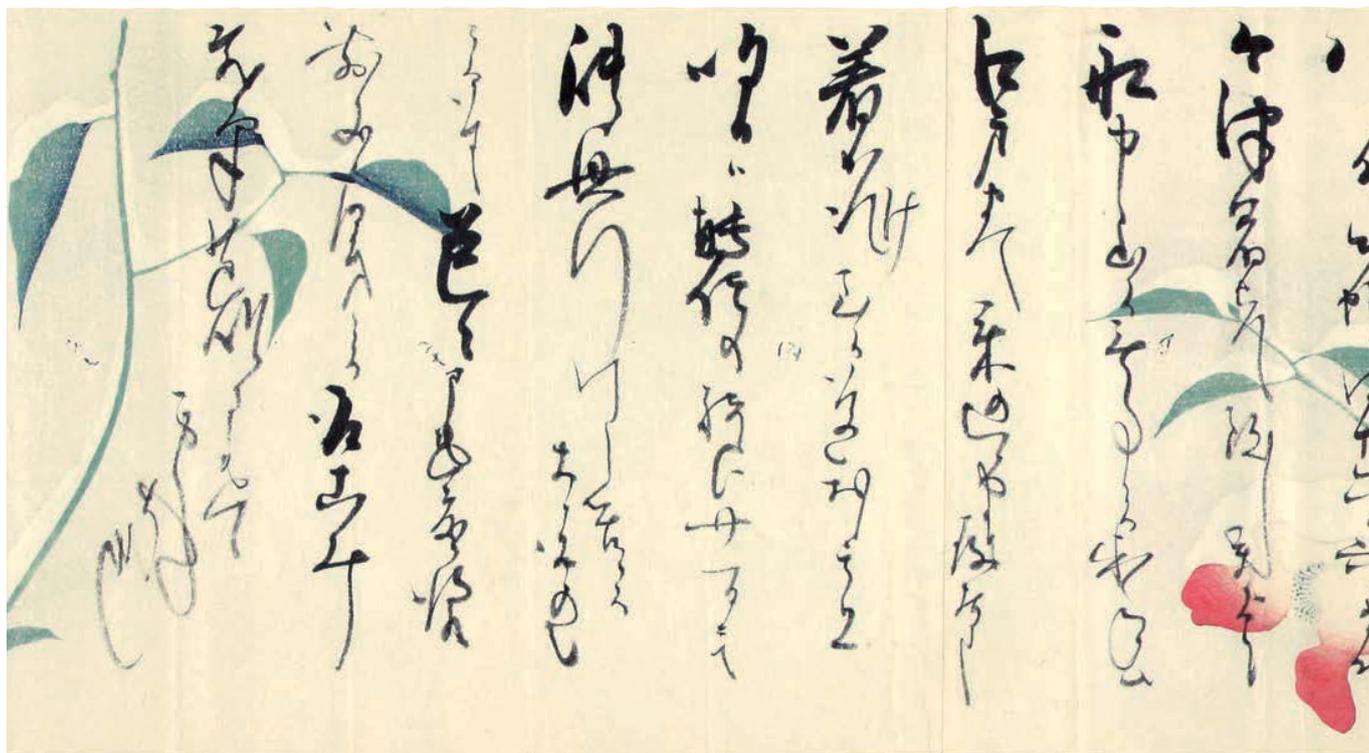
電流丸乗込 今津より

九ツ時 正午

長崎

八ツ時 午後二時

六ツ半時 午前七時



今津着せん^(船)致し参らせ候、

船中至而無事ニ而、来年も

江戸まで乗込候半と存居申候、

着かん^け至而取込^(リカ)おし、其上

明日ハ轉任の祝ひ、廿一日ニも

能興行いたし候筈ニ而、大取込

ニ而御座候、色々申遣度候得共、

前文次第ニ而取こみ、

乱筆、荒く申遣候、

万年

めてたく、かしく

今津＝本庄江の下流(佐賀市西与賀町)

江戸まで乗込

転任の祝い＝直正、前年(安政六年)十二月十六日、左近衛権中将に昇任。帰国後に祝い
転任祝いとして能興行



〔万延元年〕
卯月十八日

猶（候）く時かふ厭ひ候様

存候、

大和さま江もよろしく頼存候、

少々遣し度品も御座候得共、

與一不快ニ而分り不申、

何れ近日中可遣と

存候、幾山其外皆々江も

よろしく頼入候、以上

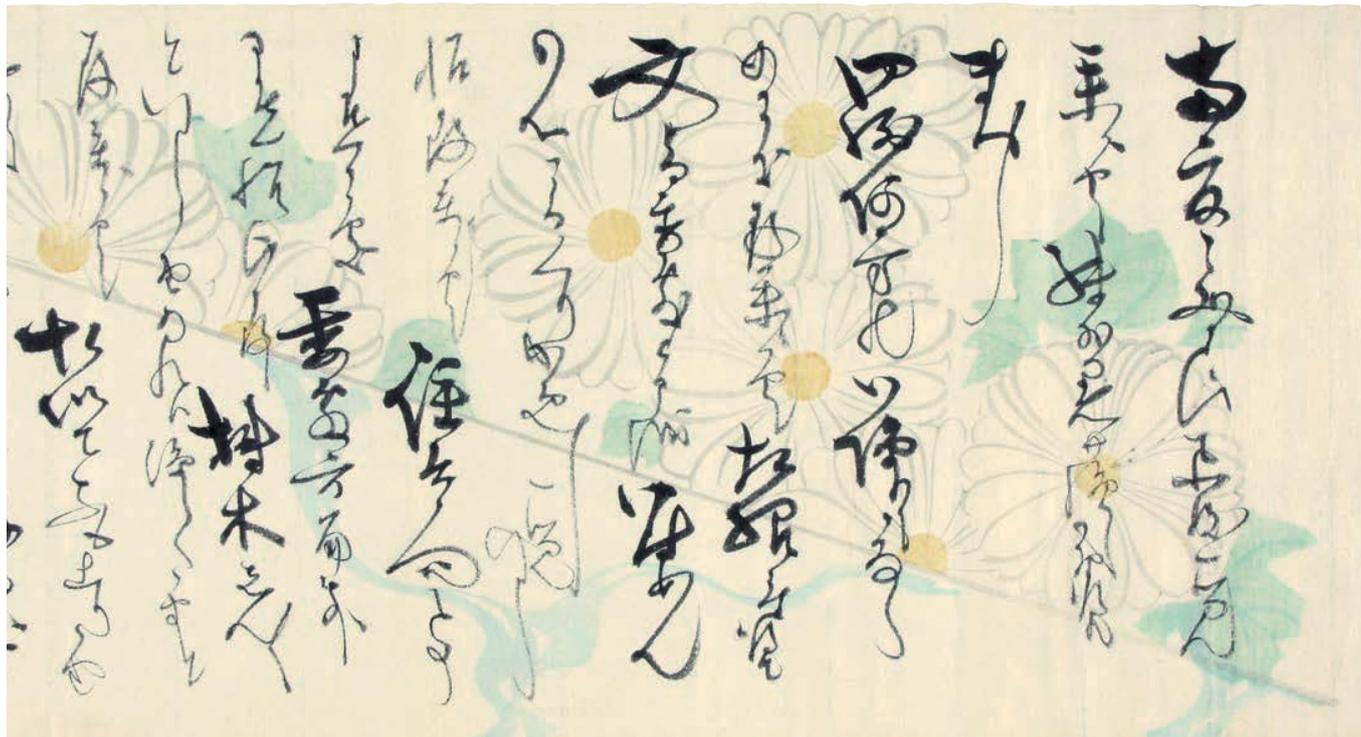
卯月＝四月

大和様＝松平直侯

與一＝古川松根

幾山

閏月（閏三月）二十九日に（佐賀城に）到着した件は先日お伝えしたところです。その後は、今月（四月）十三日夕潮から電流丸に乗込み、翌日九ツ時（正午頃）長崎に到着しました。十五日の八ツ時（午後二時頃）に出帆し、十六日朝六ツ半時（午前七時頃）今津に着船しました。船中は至って穏やかでしたので、来年は江戸まで乗り込もうかと思っています。到着したばかりで至って取り込んでおり、その上に明日は転任の祝いがあり、二十一日には能興行の予定で大変取り込んでいます。少しお送りしたい品もあるのですが、与一（古川松根）が病のため分かりません。いずれ近日中にはお送りできるでしょう。



[153]

両度之文之趣、忝致一覽

参らせ候、殊外暑サ強く御座候得共、

まつく

御揃、何方の御障りもなく、

めて度存参らせ候、左様ニ御座候得も、

文ニ而委敷被申越、對めん^(面)

の心ニ而くりかゑし一覽いたし、

怡存参らせ候、住居向之事

申遣候處、委敷方角其外

申遣、怡ひ存候、樹木しんく^(森々)

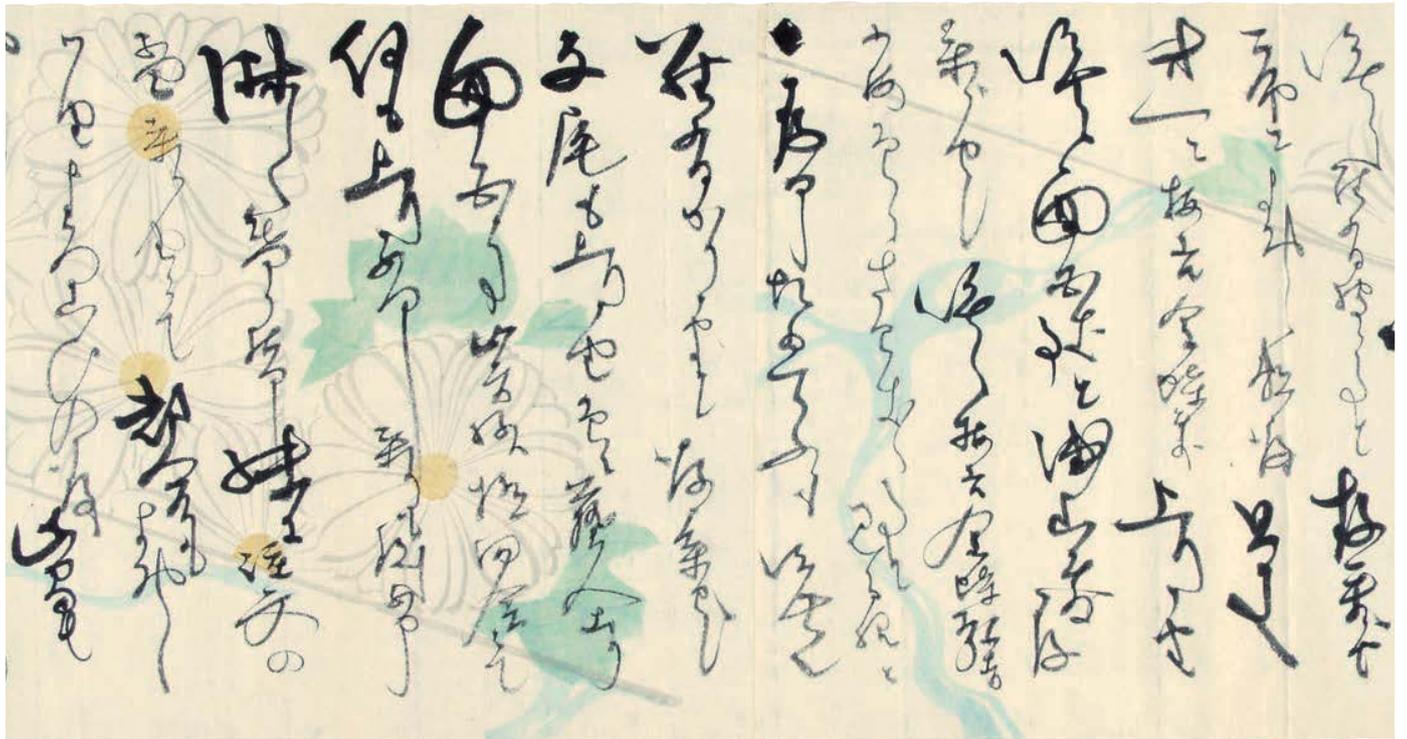
といたし候由なれハ、涼しく候半と

存参らせ候、たいてふも上り候由、

対面の心

住居向之事

たいちよう



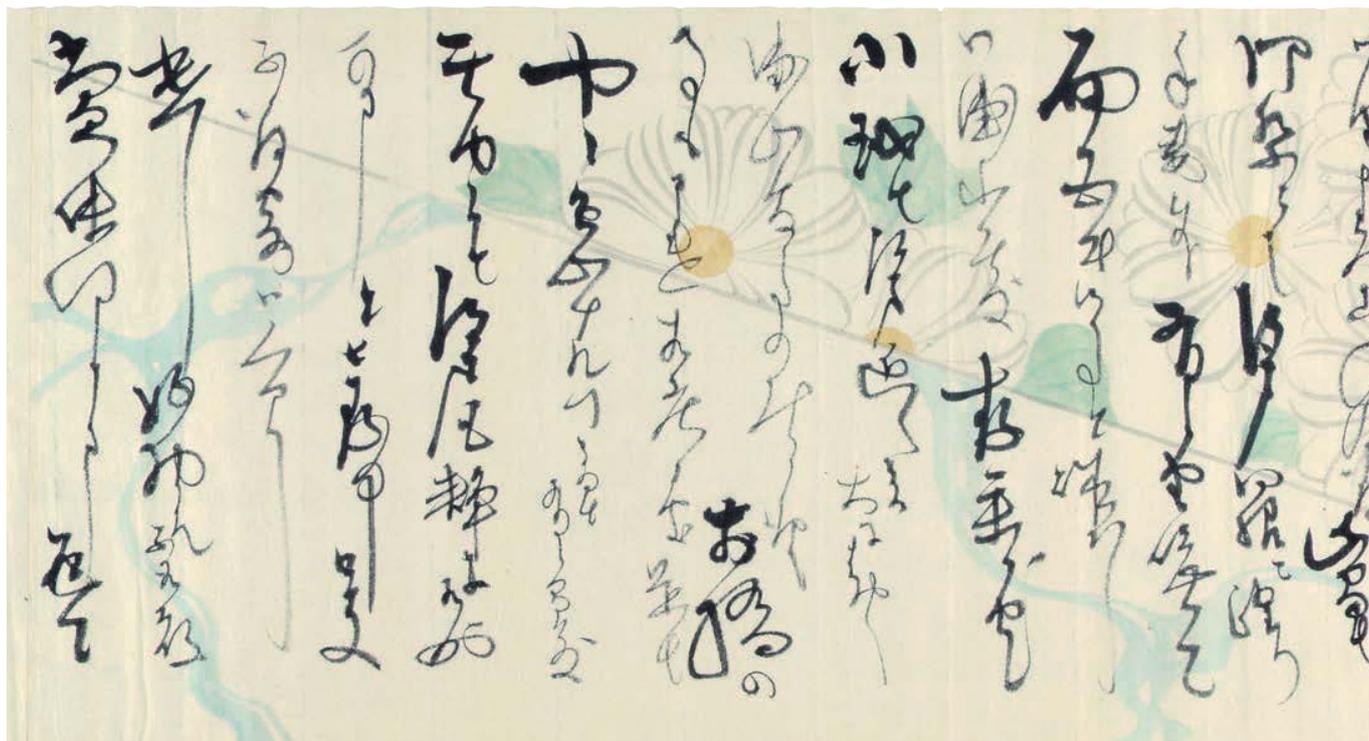
嘸(がり)と難有狩候事と存参らせ候、
 序ニよろしく頼存候、且又
 第一ニ梅吉・金蝶其外上り候由、
 嘸と面白き事と浦山敷存
 参らせ候、嘸と梅吉・金蝶・弥吉・
 小梅、色(騒ぎ)とさわき之事と見る様ニ
 被存申候、たゐてふも嘸と
 難有かり候半と、存参らせ候、
 な尾も上り候由、色と藝人上り
 面白事、此方杯ハ極田舎ニて
 何も上り不申、参りも致し不申、
 淋しく暮居申候、殊ニ注文の
 盃参候由ニて、都合もよろしく
 候由、よろこひ入存候、此間と

梅吉・金蝶

弥吉
小梅

な尾
藝人

注文の盃



御祭にて、江戸同様ニ踊り・

手妻其外有之由、嘸く

面白キ御事と、誠ニく

御浦山敷存参らせ候、

川越も江戸近くニ而大よよろしく、

浦山敷事のみ御座候、前橋の

事も申遣、相考候處、是も

中々急ナル事ニ而も有之間敷、

其内ニも江戸も静は相成

可申候と被存申候、且又、

不存寄御くわし

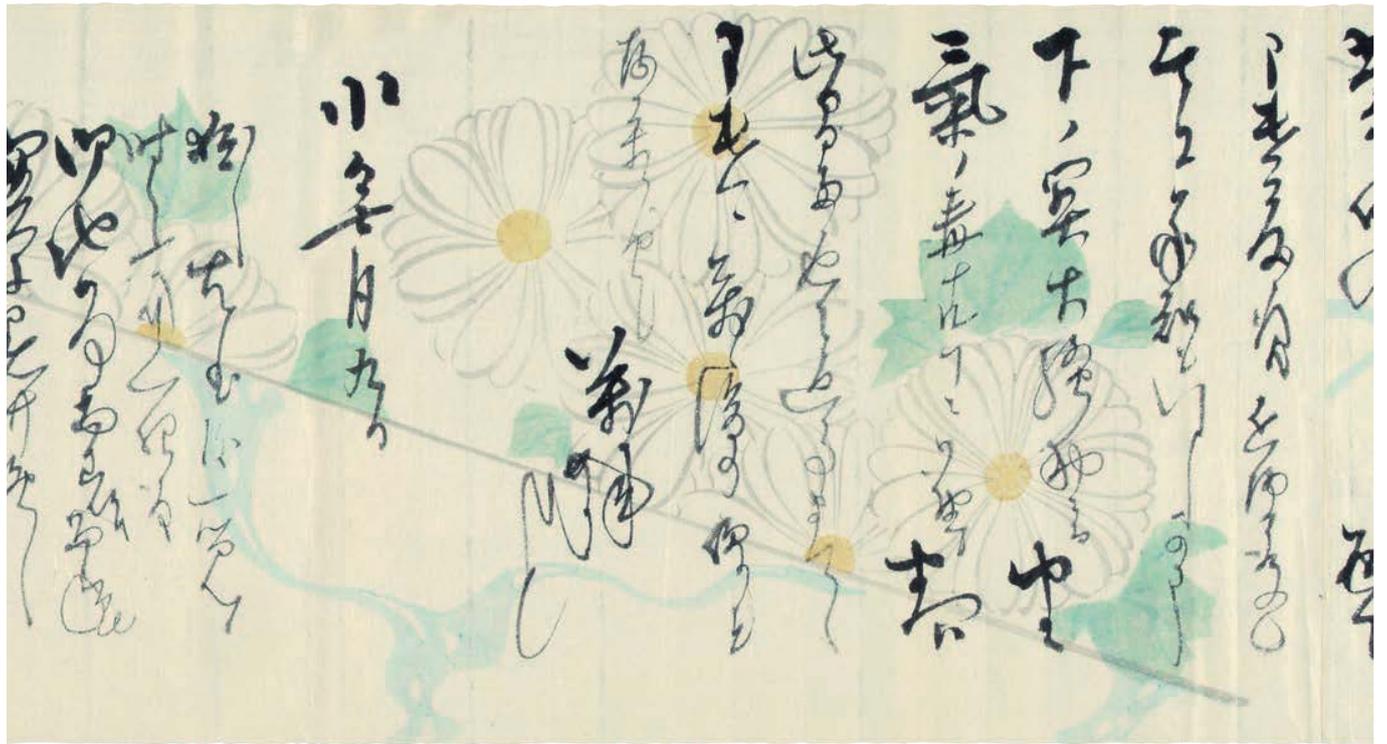
遣し、好物まで不取敢

賞味いたし申候、色々

御祭(川越)
踊り
手妻=手品

前橋の事

御菓子



申遣度候得共、近頃取込、
 其上承知もいたし可申候、
 下ノ関大騒動ニ而、中々
 氣ノ毒ナル事ニ御座候、まつハ
 此間両通之返事まで
 申遣候、萬々後の便りと
 存参らせ候、萬年

めてたく、かしく

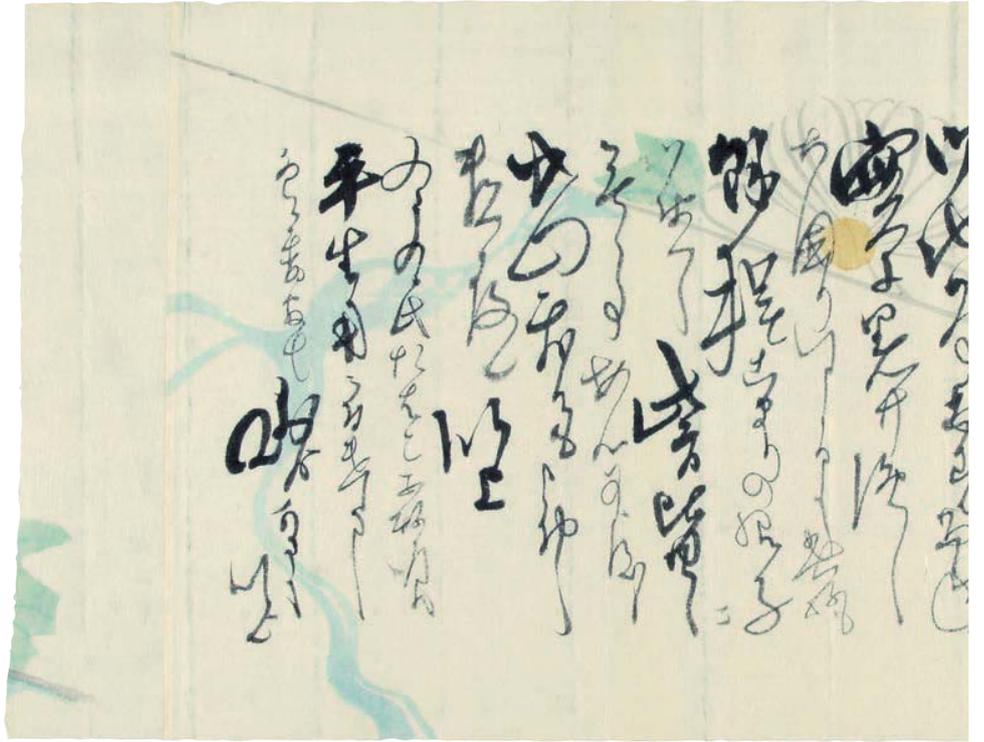
(文久三年)
 水無月九日

猶(端)はし書致一覽候、
 時(候)かふ用心候様存候、
 御地如何、當表も當年も

下ノ関大騒動〓文久三年五月、
 長州藩下関にて米・仏・蘭船
 を砲撃

水無月〓六月

御地〓川越
 当表〓佐賀



實は暑サ強く

大困りいたし申し候、奥杯も

餘程こまりの様子ニ

御座候、此方皆々

無事、安心可被致候、

幾山其外江もよろしく

頼存候、以上、

又申入候、此たも(たばこ)不珍候得共、

平生用ニ付、遣し申候、

色々委敷も磯方可申候、以上

奥ニ筆姫。文久三年四月十二
日佐賀城着

幾山

煙草

磯ニ磯浦

お手紙で詳細を伝えてくださり、対面しているかのような気持ちで繰り返し拝見し嬉しく思いました。住居向きについて申したところ、詳しく方角のことなどもお伝えくださり嬉しく思いました。樹木が林立しているとのことなので涼しいのではと思います。たい長も参上したとのこと、さぞかしありがたがっていたことでしょう。ついによりよくお伝えください。また、まず梅吉・金蝶たちが参上したことで、さぞかし面白かったことと羨ましく思います。さぞ梅吉・金蝶・弥吉・小梅の騒々しさが目に見えるようです。たい長もさぞかしありがたがっていたことでしょう。な尾も参上したことで、色々な芸人が来て面白いことですが、佐賀は極く田舎ですから誰も参上せず寂しく暮らしています。ご依頼の盃が届き、都合もよかったとのこと嬉しく思います。この間は御祭りで江戸と同じように踊りや手品などがあつたとのこと、さぞかし面白いことだったろうと実に羨ましく思います。川越は江戸の近くで大変よいことと羨ましい限りです。前橋の事もお伝え下さり、考えてみたところ、これはなかなか急には有り得ないことでしょう。そのうちに江戸も平穩になるだろうと思われます。また、思いもよらず御菓子をお送りくださり、好物のためすぐに頂きました。色々とお伝えしたいのですが近頃は取り込んでいます。それに、ご存知になることと思いませんが、下関は大騒動で、ずいぶん気の毒なことです。

川越はいかがですか。佐賀は今年は大変な暑さで大いに困っています。奥(筆姫)たちもずいぶん困っている様子です。この煙草は珍しくもありませんが普段用にお送りします。色々詳しくは磯(磯浦)よりお伝えします。

愛娘への手紙 本編
貢姫宛て鍋島直正書簡集

平成三十年（二〇一八）五月二十日

編集・発行 公益財団法人鍋島報效会

〒八四〇一〇八三一

佐賀県佐賀市松原二丁目五番二二号

TEL・FAX ○九五二一三三四二〇〇

<http://www.nabeshima.or.jp>

印刷 大同印刷株式会社

〒八四九一〇九〇二

佐賀県佐賀市久保泉町大字上和泉

一八四八一二〇

TEL ○九五二一七一一八五二〇

製本 株式会社渋谷文泉閣

〒三八〇一〇八〇四

長野県長野市三輪荒屋一九六一七

TEL ○二六一二四四一七一八五